

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行  
助 第五福竜丸平和協会  
〒136 東京都江東区  
夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494

三月は「いのちと平和の尊さ」を考  
えるにふさわしい月である。「三月一  
日ビキニデー」から「三月十日東京大  
空襲」までを「平和教育旬間」とした  
東京都教職員組合を中心とした民主団  
体の平和教育運動はすでに二十年以上  
続けられてきている。この機会に「い  
のちと平和の尊さ」を学び、考える資  
料館のあり方についてのべてみたい。  
私は機会あって去る二月中旬、佐倉  
の国立歴史民俗博物館を見学し、その  
四日後には金沢の県立歴史博物館を訪  
れた。ともに高台の広々とした敷地に  
あって公立らしくそれなりに行き届い  
た内容、施設、設備であり全国的にも  
有名である。もちろんそれらと比較し  
て論ずるつもりはないが、全国にある  
民衆の力によって長い運動の成果とし  
て実現した「平和資料館」はその存在  
に貴重な歴史を背負っているという意  
味できわめて教育的である。

私の身近にある二つの対照的な「い  
のちと平和の尊さ」を考える「資料館を  
例にとってみよう。ひとつは江東・夢  
の島の「第五福竜丸展示館」。いまひ  
とつは墨田・横網公園内の「復興記念  
館」である。  
いうまでもなく、「第五福竜丸展示  
館」は十年に及ぶ全国的な保存運動が  
実り、永久保存を実現し、その後展示  
館の維持によって平和教育の発展に大  
きく貢献したことは周知のことである。  
しかし、展示館の現状は多くの人びと  
の期待と要望に反して、施設は狭く老  
朽化し、見学者に配慮される展示内容  
や設備を拡充する願いの実現には程遠  
い。とくに、小・中学生など若い人び  
ととともに真に「いのちと平和の尊さ」  
を考えるにふさわしいものに成り切れ  
ていないもどかしさを感じてしまう。  
一方、「復興記念館」はもともと関  
東大震災の東京復興を願っての震災資  
料館ではあったが、戦後、東京大空襲  
からの教訓も継承する内容になったは  
ずである。記念館の運営は外郭団体に  
任されているうえ、東京にある唯一の

## 地域・子ども・アジアを視点にした 「いのちと平和の尊さ」を考える資料館を

根岸 泉

恒常的な東京大空襲に関する資料館と  
して「いのちと平和の尊さ」を考える  
ことにはおよそ縁遠い展示内容の貧弱  
さである。とくに修学旅行などで全国  
からくる青少年が平和を考える場にな  
るように記念館にはそれを支える人び  
との熱意と工夫が求められる。  
ところで、一昨年来、教科書批判と  
称して戦後の近現代史の歴史教育を根  
底から否定する「自由主義史観」なる  
ものが声高に唱えられている。この動  
きは「いのちと平和の尊さ」を考える  
資料館のあり方と無縁ではない。これ  
まで、資料館づくりやそれを支え、維  
持発展してきた人びとの共通した運動  
の基盤はあの「政府の行為によって再  
び戦争の惨禍が起こることのないやう  
にすることを決意」(日本国憲法前文)  
したことである。歴史教科書に新たな  
「攻撃」をする彼らにもっとも欠落し  
ているのは、それぞれの地域、子ども  
の視点とともにアジアへの視点である。  
「いのちと平和の尊さ」を考える資料  
館のあり方と役目には、これら三つの  
視点に立って取り組むことがますます  
重要になってくるであろう。  
第五福竜丸展示館は、私たち自身が、  
日本の平和、原水爆禁止運動が自ら作  
りあげた展示館なのである。  
(歴史教育者協議会副委員長)

## ビキニ事件記念集会開催

ビキニ水爆実験被災43周年の三  
月一日、静岡で、焼津で、また和  
歌山・広島・長崎・沖縄・東京な  
どで、多彩な記念の集いがもたれ  
ました。  
毎年、第五福竜丸平和協会が主  
催する「三・一ビキニ事件記念集  
会」は、三月一日夜、東京本郷の  
学生会分館で開かれ、およそ30名  
が出席、川崎昭一郎会長の主催者  
挨拶にひきつづき、最上敏樹国際  
基督教大学教授が記念講演を行い  
ました。最上教授は、「国際法か  
らみる核兵器の違法性」と題し一



ロンゲラップ村長ジョージ・マタヨシさん  
(第五福竜丸展示館で)

「第五福竜丸にいま会うことが  
できませんでした」一日焼けたた  
ましい青年の目が潤みました。  
二月二十七日、マージナル諸島  
共和国ロンゲラップの村長、ジョー  
ジ・マタヨシさん(元)が来館、  
「アメリカと交渉し島に残る放射  
能を取り除き全島民の帰島の切な  
い願いを実現することが私の仕事  
です。日本の人々に島の実態を訴  
えたい」と熱く語りました。  
三・一ビキニデー集会や核実験被  
害国際シンポジウム出席のため来

## ロンゲラップの村長来館



焼津にむけ第五福竜丸を出発した  
日本山妙法寺の平和祈念行脚 (2月12日)

日、成田空港到着と同時に来館さ  
れたもので、ロンゲラップ島民に  
船を贈る運動を進めている島田興  
生さん、清水谷子さん、昨年長期  
間にわたって太平洋の被爆者を取  
材した安齋晃誌新聞記者らと交  
流、おりから見学中の和光大学の  
学生の質問にも応じ、世界の核実  
験被害者との連帯を訴えました。  
飛行機が遅れ、今年はネルソン・  
アンジャインさんは来館されませ  
んでしたが、被爆者のエリオ・ポ  
アスさんが同行、展示館のロンゲ  
ラップの被爆者の写真を前に「私  
の母親です」と語りました。

## 静岡で研究交流集会

背景と内容、問題点や、包括的核  
実験禁止条約へと連なる状況、N  
GOの運動と新しい任務などにつ  
いて報告し、感銘を与えました。  
核兵器の後遺傷害、遺伝的影響が  
国際司法裁判所で取り上げられた  
意義も大きいなど、講演後の討論  
の中で指摘されました。  
三月二日、静岡市で「ビキニ被  
災の全容解明をめざす研究交流集  
会」が開かれ、静岡、高知、神奈  
川はじめ各地でビキニ被災の調査  
活動をつづけてきた代表が現状を  
報告し、今後の課題、運動の方向

## エンジンを夢の島へ

などを討議しました。第五福竜丸  
乗組員の大石又七氏、小塚博氏も  
出席しました。  
三月一日、和歌山市で「第五福  
竜丸のエンジンを東京・夢の島へ  
和歌山県民運動」の発足記念式典  
が開かれました。昨年十一月一日、  
三重県御浜町で引き揚げられたエ  
ンジンは、核兵器のない世界への  
願いをいっばいに積み込んで全国  
を行脚し、第五福竜丸展示館に向  
かうこととなります。

## 江東区の青年奮闘

東京の江東区職員労働組合青年  
部は、三・一を前に「第五福竜丸  
の保存運動をふりかえって」とす  
るパンフレットと写真はがき(五枚  
一組)を発行しました。第五福竜  
丸展示館の傷みがはげしく、修理  
や拡充が切望されている中でかつ  
て第五福竜丸の保存運動の先頭に  
たった地元青年たちが、いま現  
状を全国に訴え、その実現を目指  
そうと企画したもので、運動の歴  
史と共に、展示館建設途上の写真  
などを掲載、三・一ビキニデーの集  
会でも宣伝し、募金を募りました。

### 私たちの人間性回復が急務 ——核兵器廃絶達成の大前提——

小川 岩 雄

近代科学の進歩は人類に豊かな恩恵をもたらしたが、他方で恐るべき破壊力を持つ兵器の出現を招いた。その頂点ともいえる核兵器の原理を発見し、完成させた主役は、それまで核物理学などの純学問的な研究に専念してきた欧米の科学者たちだった。

この連載では、彼らが第二次大戦という未曾有の世界史的動乱の中で、どういう事情でそのような悪魔的な兵器の開発に携わることになったのか、またどういう経過で戦後半世紀にわたりその廃絶に向けての努力を重ねることになったのかを、筆者の思い出や感想を交えながら述べてきた。いま連載を終えるに当り、その大筋を振り返ってみよう。

ナチス・ドイツの核兵器取得を恐れ、それに対抗して核兵器開発を始めた欧米の科学者たちは、核エネルギーの解放という前人未踏の技術的課題に情熱的に取り組ん

だが、最初の原爆が遂に完成に近付いたとき、彼らの多くはその凄まじい威力に強い衝撃を受け、このような破壊力を手にした人類の未来について深刻な不安に襲われた。とくに彼らの多くが望まなかった広島・長崎への原爆投下と、それによる惨害の報道は、彼らに自らの社会的責任の重大さをはじめて痛感させることになった。

一方、戦時中軍事研究に協力した末に広島・長崎の災害を直視させられたわが国の科学者は、戦後深く反省するとともに、原爆災害の調査結果を内外に伝え、核兵器の非人道性を明らかにした。

しかし戦後米ソ間の冷戦は急速に激化し、それに伴って軍備競争も白熱化し、原爆の成功から僅か六年後にはその百倍に近い威力の水爆が出現、その三年後にはさらに一ケタ以上強力な新型水爆の実験を米国がビキニ環礁で行った。この実験で生じた放射性降下物

が引き起こした第五福竜丸などの被災事件は、早くから水爆開発に反対してきた各国の科学者に核戦争による人類破滅の可能性を実感させ、一九五五年のラッセル・アインシュタイン宣言と、それに答えたバグウォッッシュ科学者会議の発足(一九五七年)に導いた。

最初の会議は参加者がわずかに十四人のささやかな合宿だったが、冷戦下で東西の科学者が初めて率直に話し合える貴重な場となり、核時代の科学者の社会的責任を体制を越えて確認するとともに、地球的な放射能汚染の現状やその影響についての評価で一致できた。

以後この会議は大小数百回の機会を開き、核時代の諸問題の一般的な討論や、種々の緊急課題解決の具体策を検討する堅実な努力を重ねてきた。その結果、会議は次第に各国の科学者や政治指導者の関心と信頼を深め、多くの成果を収めた。例えば、会議が検討し促進した核兵器不拡散条約(NPT)、部分的核実験禁止条約(PTBT)、戦略兵器削減条約(START)などは軍備競争の減速や緊張の緩和に少なからず貢献した。

生まれた核抑止論に基づき、米ソなどの核保有を前提としており、核廃絶の目標とは相容れない。湯川博士ら日本のグループは早くからこの点を批判してきたが、なかなか受け入れられなかった。

ところが旧ソ連が崩壊し、冷戦が終結する頃から状況が急速に変化し、「核兵器のない世界」がにわかにならなくなった。この目標は今や日本を含む各国の元将軍や元提督さえもが熱心に主張しており、ラッセル・アインシュタイン宣言が目指した戦争のない世界、すべての国際問題が人間性だけに基いて解決される世界への重要な前段階が、人々が真剣に望むならば、やがて実現できるかに思われる。

しかし実はそれほど簡単ではない。核兵器を必要悪と考える人々は、核兵器国ばかりか私たちの回りにも少なくない。核抑止力に国の安全を委ねる政権の持統がそれを物語る。科学者も例外ではなからう。「あなたの人間性を心に留め、他のことを忘れよ」とのラッセル卿らの訴えは核廃絶達成の大前提を明確に指摘している。

(立教大学名誉教授・協会理事)

### カナダの核政策転換に挑む ダグラス・ロウチ氏を囲んで

川村 一之

四十三年目のビキニデーに合わせて来日されたカナダのダグラス・ロウチさんと話合う機会があった。ロウチ氏はカナダの中道保守系と言われる進歩保守党の国会議員を務めた方であるが、国連の軍縮大使を経験し、現在はアルバータ大学で教鞭をとりながら政府に核兵器政策の転換を求めている。

ロウチ氏の意見は明快である。現在は核兵器廃絶に向けた歴史的な勢いがあると言う。その勢いには三つの要素があり、その一つは司法の場で、二つ目は政治の場で、三つ目には軍人たちがそれぞれ核兵器政策の転換を求めている。第一の要素は一九九六年七月八日、国際司法裁判所(ICJ)で核兵器の使用や威嚇は一般的には人道法に違反するという判断が下されたこと。そして、各国政府に核軍縮を義務づけ、これを終結しなければならぬことである。

第二の要素は一九九六年八月一日、オーストラリア政府が主催した「核廃絶に関するキャンベラ委員会」が核兵器は人類と環境に対する脅威と宣言し、核保有国に対し、無条件で全ての核兵器の廃絶を求めたことである。

第三の要素は一九九六年十二月五日、米ロ両国、それに日本を含む一七カ国の元将官たち六十一人が、核兵器の存続と核拡散の可能性が安全を脅かしているとして、長期的な核政策は核廃絶という原則に基づくものでなくてはならないと宣言したことである。

このような情勢判断からロウチ氏とカソリック教徒で組織する「プロジェクト・プラウシュエ」はNATOに加盟し、自国の核兵器は持たないが、アメリカの核戦略と密接な関係にあるカナダの核兵器政策の転換を政府に求めていく行動を起こした。

ロウチ氏は昨年九月十日から十一月一日まで国内の一八都市を選んでカナダの核兵器政策を再考する円卓会議を精力的に行っている。会議はコミュニティーの指導者たちに招待状を出し、二十五人程度の人数でテーブルを囲みながら核政策について真剣に議論する方法をとった。参加者は、市会議員、聖職者、大学教授、医師、弁護士、先住民、労働者などあらゆる階層にまたがっている。事前に国際司法裁判所の勧告文やキャンベラ委員会の報告などの資料を配布し、当日はワシントンの防衛情報センターが制作したビデオ「核兵器の廃絶」を見たあと、ロウチ氏が二十分程度レクチャーし、一時間半にわたって対話する。この円卓での対話の方がデモなどより、参加者が自分の見解を述べることででき、関心が高まる。ロウチ氏は各地の円卓会議の結果を全国報告書にまとめ、政府に提出した。

その結果、カナダの外相ロイド・アクスワージーは、カナダ国会の下院外交委員会に核兵器問題とNATO参加問題の政策検討を付託した。外相は「カナダがアメリカの核兵器に依存し続けるべきかど

うかを検討することになる。」と述べており、NATO加盟国で初めて核兵器政策の見直しが議題となった意味は大きいと言える。

昨年十二月十日、国連総会で核軍縮完了義務規定と核兵器禁止条約(NWC)交渉の一九九七年開始を求めたマレーシア決議案が賛成百十五、反対二十二、棄権三十二で採択された。カナダは決議案全体ではNATO加盟国の結束を優先させて反対票を投じている。しかし、核軍縮完了義務規定に賛成票を投ずるために分離投票を主張したのもカナダである。この決議案には、核保有国でただ一つ中国が賛成した。日本は核軍縮規定に賛成したが、NWC交渉開始と決議案全体には棄権している。総会決議は拘束力を持たないが、世界の大多数の意思であることは間違いない事実だ。

ロウチ氏は今年の三月十八日、核兵器政策の検討を付託された下院外交委員会で陳述する。アメリカの抵抗を打ち破れるかどうか分らないがとにかくやってみると力強く語るロウチ氏にクリスチャンの気概を感じた。

(「地球を考え地域で行動する市民」)